

## ■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① この花の色いとうつくし。
- ② 山の高きを見て、心おどろく。
- ③ 道遠くして、日暮れぬ。
- ④ かの人の歌、まことにめでたかりけり。
- ⑤ 夜寒くなりて、霜おく。
- ⑥ 川の水清ければ、魚すむ。
- ⑦ 別れの悲しさ、言はむかたもなし。
- ⑧ 月明かかる夜、虫の声しげし。
- ⑨ いとうれしくて、涙こぼれぬ。
- ⑩ 風すさまじけれど、人々出でゆく。
- ⑪ かばかりあさましきこと、見しことなし。
- ⑫ 都の恋しさに、夜も寝られず。
- ⑬ 老いの身は苦しからむと、人言ふ。
- ⑭ 庭の桜、ことにうるはし。
- ⑮ かの僧、人よりかしこかりき。
- ⑯ 心づよくあれと、母の言へり。

## ■ 設問 (全25問)

1. 傍線①「うつくし」は、ク活用・シク活用のいずれか。「なる」を付ける方法で確かめて答えよ。
2. 傍線①「うつくし」の終止形(基本形)を答えよ。
3. 傍線②「高き」は、ク活用・シク活用のいずれか。
4. 傍線②「高き」の活用形(未然形～命令形)を答えよ。
5. 傍線②「高き」の終止形(基本形)を答えよ。
6. 傍線③「遠く」は、ク活用・シク活用のいずれか。
7. 傍線③「遠く」の活用形を答えよ。
8. 傍線④「めでたかり」は、ク活用・シク活用のいずれか。
9. 傍線④「めでたかり」は、なぜ本活用ではなく補助活用(カリ活用)が用いられているのか。下に付く語に着目して説明せよ。
10. 傍線⑤「寒く」を現代語訳せよ。
11. 傍線⑥「清ければ」の活用形を答えよ。
12. 傍線⑦「なし」は、ク活用・シク活用のいずれか。
13. 次の文の傍線部「明かかる」を、本活用を用いた形に直すとどうなるか。ただし、ここでは下に体言「夜」が付く連体形であることに注意して答えよ。  
(例文⑧「月明かかる夜」)

14. 傍線⑨「うれしく」は、ク活用・シク活用のいずれか。
15. 傍線⑨「うれしく」の終止形（基本形）を答えよ。
16. 傍線⑩「すさまじけれ」の活用形を答えよ。
17. 傍線⑩「すさまじけれ」を含む「風すさまじけれど」を現代語訳せよ。
18. 傍線⑪「あさましき」は、ク活用・シク活用のいずれか。
19. 傍線⑫「恋しさ」のもとになっている形容詞の終止形（基本形）を答え、その活用の種類（ク活用・シク活用）も答えよ。
20. 傍線⑬「苦しからむ」の「苦しから」の活用形を答えよ。
21. 傍線⑬「苦しから」の終止形（基本形）を答えよ。
22. 傍線⑬「苦しからむ」で、補助活用「苦しから」が用いられているのはなぜか。下に付く語に着目して説明せよ。
23. 傍線⑭「うるはし」は、ク活用・シク活用のいずれか。
24. 次の傍線部について、本活用か補助活用（カリ活用）かをそれぞれ答えよ。
  - (1) 傍線③「遠く」
  - (2) 傍線④「めでたかり」
  - (3) 傍線⑧「明かかる」
  - (4) 傍線⑮「かしこかり」
25. 形容詞のク活用とシク活用を見分ける方法を、具体例を一つ挙げて簡潔に説明せよ。（記述）